

又「親だから堪忍がでさぬ」とは彼は堪忍は已より劣つた者に對してする事と思つてゐる證據で之は平生「春子はちいさいのだからそれをかしてやりなさい、こらへてやりなさい」などいふ事が多いからでありましょうか後來のためにどんな物かしらんと思つて居ます。

(未完)

今昔いろいろは料理 (ち)

石井泰次郎

茶巾たまで

かまごの新らしきを鍋に入れて、鍋の湯のぬるまの内より煮込みて、およそ十五分間位にて、網掬子に掬ひ上て見るべし、上ると其ま、皮の水氣の乾く時は最早なかの水分なきなり、又からの乾くに間ある時は未だ中の水分あるなり、如此してか

らの直ちにわくをゆで上りの標として鍋をおろして、鍋の中に水を加へて手を入るゝほどになし、手にて玉子一ツを取出して、鍋のふちにてもからをあて、破れめを付てからをむき去り、のこらず皿にとり、薄刃庖丁刀にて白味を二つに切かけて、中の黄味を丸のまゝ出すべし、さて黄味と白味と分ておきて、先白味を馬尾篩にて漉すべしするなるの上に白味をのせて白味三ツのかさに白砂糖六匁食鹽五分のわりに合せて木杓子にて押漉すべし、次に黄味を馬尾篩にのせ黄味三ツの中へ砂糖三匁食鹽五分を入れてのわり合にて漉すべし兩方として、布巾に三ツの玉子なれば四つ分になしかき、白味と黄味とを布巾の中に並べて入て、つゝみて右の手にて捻りて左の手の大指にて下をおし、又大指の元のふくらみたる所にても、そつ

どおして布巾ふきんよりそつと取出とぎだすべし、さて蒸籠せいろに入いれて十分間ふんかんほどむしてよし。

茶巾ちゆきんさつまいも

是これも右みぎに同じ様ようなり、さつまいもを皮かわをむきて二分位にぶぶんに切きても、又は丸まるのまゝむしても、切きてする方は切きて水みづに入いれて、よくさらし、水みづをかへおき鍋なべに湯ゆを煮にて、入いれて五分余ごぶんあまりほど湯ゆで、ゆたりたらばざるへ上あがて湯ゆを切きて、次つぎにうらごしするなり、又またひすかたは三十分ほどむして、皮かわをむきて、切きて馬尾篩すいのみにてうらごし、布巾ふきんに包つみて形かたちをつくるなりさつまいも四十匁しじゅうもんめに砂糖とうとう十匁じゅうもんめのわりにてよし、但たゞ水分多たみずいぶんおほきいもは六十匁ろくじゅうもんめ以上いじょうになり、水分すいぶんなきいもなる時は三十匁さんじゅうもんめにて同おなしかさなれば其そのわり合あひは能よく々ことろ試しみて知るべし。

看護法 (前々號の續)

醫學士 長瀬復三郎

子供の外部ぐわいぶはさう云ふものです精神せいしんにしても精神せいしん上の病氣びやうきのある子供こどもならば元來がんらい五官ごくわんの發育はついくと子供の精神せいしんの發育はついくは伴ともなふて行かねばならぬものですから五官ごくわんの働はたらきが完備くわんびして居るや否いなと云ふ事を見るは子供の精神せいしんの發育はついく如何いかんを見るに必要ひつような事である、學齡がくれいに達たつした子供こどもならば絶えず身体しんたいを動かして居て人ひとと一緒に遊あそぶ事も好きすであり、自分の判わからぬ事の事物じぶつをば知りたいたいと云ふ疑うたがひの念ねんがあるとか云ふやうな事が子供の氣象きしやうである、其子供こどもが外見ぐわいけん上じやうさう著ししく變化へんくわはなくても皆みなと遊あそぶ事が嫌きらいで部屋へやの隅すみにスクンで居ゐりたいとか身体からだも餘あまり動うごさず倦意けんいの状態じやうたいがあれば即ち其子供こどもは精神的せいしんてきに何か不愉快ふゆくわいな事があると云ふ事が推察すいさつが出来る、